

推奨モデル特別賞

- 団体名 社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム（東京都）
- 企画名 小中学生女子キャンプ ～PRIDE を白馬岳縦走に賭けて～
- 目的

発達段階や体力的な面における負荷などは考慮すべきだが、「女の子だから」、「男の子だから」ということではなく、「人として」大事な部分を、自然の中での活動を通して追求していく。

この年代の女兒は、自立意識が高い反面、きっかけさえあれば、自分の思いを語ることを厭わない積極性もあり、活動をふりかえり体験を言語化することで、今の境遇に負けることなく、今後の成長につながるきっかけになることを目的とする。

児童養護施設で生活する児童は、その境遇から自己肯定感が低い傾向があると言われていいる。自分の生い立ち、世間からの偏見など、当事者にしかわからない苦悩があるが、自然は誰に対しても「平等」であるという観点から、雄大な自然の中で挑戦する体験により、少しでも前向きに生きられる精神性を培ってほしい。

- 企画内容 白馬岳 登山縦走

ふりかえりによる自分の気持ちの言語化

- 実施期間 2020年9月19日（土）～9月22日（火）

- 実施場所 白馬岳

- 企画の特徴

児童養護施設で生活する女兒のみで実施するプログラム。

大自然の中で、自分と向き合い、仲間と共に過ごす体験。

- 児童の感想（一部抜粋）

「最初は「何でこんなことをやらなくちゃいけないの?」と思った。でも、登っていると景色とかすごくて、とても気持ちがいいと思うようになった。辛くて大変だったけど、普段は絶対に見ることができないすごい景色と、白馬岳の山頂に立つことができた事は最高の思い出になった。」

「最初はとても不安だったけど、登ることができました。やればできるんだと初めて思いました。これからも、たくさん大変なことがあると思いますが、この経験からやればできるということがわかったので、何事もあきらめずに挑戦していきたいと思います。」

「下りたときは「もう二度とやりたくない」と思いました。でも、時間が経つと山で見た景色や夕焼け、青い空、雲の上を歩いているような感じなど、けっこうすごいことをやってきたのかなあと思うようになりました。」

「やる前はけっこう簡単かなと思って自信があったけど、その自信が打ち砕かれるくらい大変でした。登るのに時間がかかってしまって、着いたのは夕方でした。寒くて疲れて、もう歩きたくないと思ったけど、そこから夕陽が見えました。雲が燃えているみたいで、なんだかとてもすごくて、よくわからないけど泣きそうになりました。この景色が見ただけでもやってよかったと思いました。」

